タイトル：ゴシック20pt

(約15mmスペース)

○高専 太郎\*・高専 二郎\*・学会 太郎\*\*・学会 二郎\*\*

函館市国際水産 太郎\*\*\*・函館市国際水産 二郎\*\*\*・John SMITH\*\*\*\*[明朝12pt]

（△△高専□□学科\*・日本高専学会\*\*・海洋総合研究センター\*\*\*・JACT \*\*\*\*）

[発表者に○印を付ける。 \* は所属が複数となる場合に各著者に付ける]

[発表者と所属が１行に収まるようであれば，次のように１行に纏める]

○高専 太郎・高専 二郎・高専 三郎（△△高専□□学科）

(約10mmスペース)

1．はじめに [章見出し：ゴシック11pt]

これより日本高専学会年会講演会の原稿の書式等について説明いたしますが，当雛形の各項目を上書等することにより，所定の原稿が作成できます．[本文：明朝10 pt]

なお， **ポスターセッション発表も講演概要集掲載用原稿の提出が必要となります**．

2．提出期限等 [章見出し：ゴシック11 pt]

　表-1のようになりますので，よろしくお願いいたします．[本文：明朝10 pt]

表-1[ゴシ9 pt]　一覧(表のキャプションは上)[明朝9 pt]

|  |  |
| --- | --- |
| 提出期限 | 2022年**7月1日(金)**  |
| 提出先 | nen\_genuketuke@jact2013.sakura.ne.jp |
| 提出方法 | メールへの添付ファイルによる |
| 提出物 | PDF形式のファイルヘッダー，フッターには何も記入しないで下さい． |
| ﾌｧｲﾙ名 | 2022-nenkai-000000-Name(Xnct).pdf000000は発表受付番号にName は発表者名に，Xnct は所属(高専名等)に変えてください． |

3．基本フォーマット

(1) ページ数 [節見出し：ゴシック11 pt]

原稿は，「A4判・2ページ以内（1ページも可）」，で作成してください．

(2) ページレイアウト

余白は，上辺19 mm，左辺20 mm，右辺20 mm，下辺24 mmになります．ヘッダー，フッターには何も記入しないで下さい． [当雛形で設定済み]

(3) タイトル

タイトルは，ゴシック体20 ptとします．

(4) 著者名

著者名は，明朝体12 ptとし，著者名の後に所属を括弧書きで記入して下さい．

所属が複数ある場合はアスタリスクを上付文字で付け，各所属が分かるようにして下さい．

発表者の前に○印をつけて下さい．

(5) 本文 [節見出しまでゴシック11 pt]

a) 本文 [項見出しはゴシック10 pt]

本文は，明朝体で10 ptとします．英数字は「Times New Roman」体とします．句読点は“．”，“，”を使用します．

b) 見出し [項見出しはゴシック10 pt]

見出しのレベルは．章[1. 2. …]，節[(1) (2) …]，項[a) b) …]の3段階とします．

章・節の見出しはゴシック体11 ptとし，章の見出しの前後は1行あけてください．

項の見出しはゴシック体10 ptとします．

(6) 数式 [節の見出しはゴシック体11pt]

　数式は式番号を(1)，(2)のように入れてください．

  (1)

(7) 図表

図，表は，図-1，表-2のように記述します．図・表のキャプションの図・表番号は9 ptのゴシック体とし，図・表の説明は，9 ptの明朝体とします．原稿が見やすくなるよう，図や写真等は1段組みで掲載して頂いても構いません．

|  |
| --- |
| 図 |

図-1[ゴシ9 pt]　図のキャプションは下[明朝9 pt]

表-2[ゴシ9 pt]　表のキャプションは上[明朝9 pt]

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 |
| 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 |
| 表 | 表 | 表 | 表 | 表 | 表 |

4．ポスター原稿

　ポスターセッション発表者も，年会講演会概要集掲載用の原稿提出が必要です．

各自で作成したポスターは，後日連絡しますWEB会議システムに8/19までに提出してください．

5．まとめ

まとめの文章？

参考文献 [ゴシック11 pt]

参考文献は出現順に番号を振り，文中に上付き文字で文献番号を入れます1)．

1. 高専太郎，高専次郎：高専物理学，pp. 35-40，岩波書店，2009．
2. Shepard, F. P. and Inman, D. L.: Nearshore Water Circulation, Trans. AGU., Vol. 31, No. 2, 1990．
3. 高専次郎，高専三郎，他：「創造性教育の取組み」，pp. 223-226，平成17年度工学教育講演論文集，2005．
4. WEBサイトを参照した場合の記載方法